

越谷アルファーズ新ホームアリーナ説明会 議事録

- 【日 時】 令和8年2月20日(金) 19時00分～21時00分
 令和8年2月21日(土) 10時00分～12時10分
- 【場 所】 越谷市立大相模中学校 体育館
- 【主 催】 越谷アルファーズ、越谷市
- 【出席者】〔市総合政策部〕岩永部長、野口副部長（兼）政策課長
 〔アルファーズ〕上原社長、森岡氏、その他1名

■ 越谷アルファーズからの説明 要旨

【越谷アルファーズの歩みと地域密着の理念】

1997年に株式会社大塚商会のバスケットボール部として創部したクラブは、2017年に越谷市とホームタウン提携を結び、「越谷アルファーズ」としてプロクラブ化した。その後着実に実力をつけ、2024年には国内トップリーグであるB1への昇格を果たした。クラブは以下の4つの理念を掲げ、単なる興行にとどまらない活動を展開している。

1. 地域の魅力を広めるハブとなること
越谷市の特産物である越谷ねぎをモチーフにした応援グッズ「ネギぼんぼん」を活用した越谷市の認知度向上 など。
2. こどもたちの夢・憧れ・希望となること
市内小中学校での朝の挨拶運動や保育所・幼稚園訪問など、年間100回以上の地域貢献活動 など。
3. アルファーズをきっかけに街に人々が訪れること
ホーム戦・アウェー戦を通じた交流人口の拡大と経済効果の創出。
4. 誰もが楽しめる日本一の「一体感空間」を生み出すこと
バスケファン以外にも熱狂できるエンターテインメント空間の提供。

【「B.革新」とB.LEAGUE PREMIER 参入への課題】

Bリーグは2026年秋から制度を大きく変更し、成績による昇降格を廃止して「B.LEAGUE PREMIER（以下「Bプレミアという。）」を頂点とする3層構造へ再編される（「B.革新」）。トップリーグであるBプレミアへの主な参入要件は、以下の3点である。

- ・売上高12億円以上
- ・平均入場者数4,000名以上
- ・5,000席以上かつスイートルーム等を備えたBプレミア基準のアリーナ

現在、クラブは売上（15億円見込み）と入場者数（平均4,000名突破見込み）の2条件はクリアできる見通しであるが、最後の「Bプレミア基準のアリーナ」が最大の課題となっている。

【レイクタウンにおける新アリーナ構想】

B プレミア参入条件を満たすため、クラブは国内最大級のショッピングモールに隣接するレイクタウン地内の市有地を候補地とし、新アリーナ整備計画の検討を進めている。

2024年3月に越谷市へ「土地の使用などの市の支援」について要望書を提出後、資金面が障壁となっていたが、スポーツ庁のスポーツコンプレックス推進事業の採択や民間企業の協力を得てプロジェクトが前進した。

現時点で、新アリーナは最大5,000～6,000席程度の規模を想定し、「日本一のスポーツと市民の日常体験が融合する越谷のシンボル」をコンセプトとして試合がない日も多様な世代が憩う「街のリビングルーム」のような持続可能な施設を目指している。

【今後の展望とスケジュール】

クラブは、2029-30シーズンからのB プレミア参入を目標としている。これに向けて、2027年10月のライセンス審査通過を目指し、今年度からの設計着手を検討している。アリーナ建設に伴う渋滞や騒音などの懸念事項についても、先行事例を参考に最大限の配慮を行いながら、行政や地域住民と一体となって日本一の地域・クラブづくりを進めていく方針である。

■ 越谷市からの説明 要旨**【越谷市の基本的な立場と方針】**

2024年3月に、B プレミア参入を目指すクラブから、「レイクタウン地内の市有地を活用した新たなホームアリーナ整備の可能性の検討のため、土地の使用などの市の支援について配慮をお願いしたい」との要望をいただき、このことを受けて、クラブと本市とで継続的に意見交換を行ってきた。現在はレイクタウン地内の市有地の貸付けを前提とした支援の可能性について検討を開始している。

アリーナは高い集客が見込まれる施設であり、また、クラブが継続的に越谷市をホームとしてトップリーグで活躍されることで、市の全国的な知名度向上や、郷土愛の醸成、スポーツを通じた地域の活性化といった社会的・経済的な効果が期待できる。市としてはこれらの効果を強く期待しつつも、「民設民営（民間による建設・運営）」を基本スタンスとして、クラブへの支援の可能性を検討している。

一方で、アリーナは長期間にわたって運営されることが見込まれる施設であり、地域住民の皆さまの生活環境などへの影響といったことも懸念される。今後、アリーナによって生じる社会的・経済的効果や、周辺地域の生活環境などへの影響、クラブ側の事業計画の持続可能性、アリーナの利用ニーズ等について調査・検証を実施していく。

市としては、こうした調査結果などを踏まえたうえで、土地の貸付けなど、クラブのアリーナプロジェクトへの支援について、地域をはじめ市民の皆さまに十分に説明し、理解をいただきながら、クラブとの協議や行政として必要な検討を行い、合理的な判断をしてまいりたい。

また、この調査の一環として、3月に市民を対象としたアンケート調査を実施する予定である。

■ 質疑応答 要旨

凡例：Q…ご質問・ご意見

※質疑応答の要旨については、公表用にご質問・ご意見の意図が分かるように取り纏めておりますので、ご了承願います。

■ 説明会の目的について

Q 1 今回の説明会の趣旨は、アリーナ整備が決定し計画を進めていくという報告なのか。

【アルファーズ】

この説明会は、レイクタウンでのアリーナ整備を目指し、市に要望を出している状況について、クラブの考えを市民の皆さまに説明するために開催しているものである。

■ B プレミアへの参入について

Q 2 B プレミア参入に向けた入場者数の基準についてクリアできる見込みがあるのか。集客の見通しについて教えてほしい。

【アルファーズ】

2025-26 シーズンにおいては、入場者数基準を達成見込みである。

2026-27 シーズンからは「B.LEAGUE ONE」で戦う予定であるが、このリーグにおける B.プレミア参入の基準として平均入場者数 3,000 人以上、売上 9 億円以上の達成が求められている。

集客については、B2 在籍時から地道な取組を積み重ねてきており、平均 3,000 人の基準については達成できる計画を立てている。クラブを応援していただいている方々、また新たに会場していただく方々へのアプローチなど、これまで蓄積してきたノウハウを活かしながら基準達成を目指していく。

Q 3 5,000 席規模のアリーナでは、より大規模なアリーナを持つクラブと比べて収益面で不利になるが、そのような中で B プレミアで優勝を争えるチーム編成が可能なのか。

【アルファーズ】

アリーナの席数によって入場料収入に一定の上限ができてしまうという課題は承知しているが、クラブの収益は入場料収入だけでなく、スポンサーシップや各種事業など複数の収益源を組み合わせ成り立つものと考えている。そうした収益を総合的に高めながら、B プレミア参入と強いチームづくりを目指していきたい。

また、現在は売上規模の大きいクラブが選手人件費を多く投入できる構造もあるが、2026-27 シーズンからはサラリーキャップ制度が導入され、選手人件費に上限が設けられるため、リーグ全体として戦力均衡が図られる仕組みになると認識している。

Q 4 B プレミアのチーム数について、現在 26 チームであることを踏まえると今後参入できる枠が限られてくるのではないかと。目標としているシーズンに間に合わず参入できないリスクをどのように考えているのか。

【アルファーズ】

B プレミアのチーム数について、現時点で上限は設けられていないが、今後も上限が設けられることがないのかは不確実であると考えている。そのため、2029-30 シーズンでの参入を目標として、できるだけ早期の実現を目指している。

Q 5 スケジュールについて。民設民営であっても、市有地を使い公金が投入される可能性があるのであれば、2 年から 3 年をかけて事業の継続性や市民理解などの検証を行うことが通常であるが、スケジュールを急ぐ理由について教えてほしい。

【アルファーズ】

現在、B プレミア参入のチーム数には上限が設けられていないが、参入を目指すクラブが当初想定よりも増えている状況もある。将来的に参入条件が変わる可能性も考慮しできるだけ早い段階での参入を目指している。

■ 事業スキーム・事業体制について

Q 6 民設民営の方式はすでに決まっているのか。

【アルファーズ】

事業方式については、民設民営が実現可能性の高いスキームとして官民連携協議会でも意見が出ており、現在クラブとして検討を進めているところである。

Q 7 非常にタイトなスケジュールと認識しているが、どのような体制で検討を進めていくのか。

【アルファーズ】

アリーナ整備は建設から運営まで幅広い事業となるため、クラブ単独ではなく、施設整備や運営（催事誘致、維持管理等）を担う様々な事業者と連携する体制を想定し検討を進めている。スケジュールとしては、2029-30 シーズンの B プレミア参入を目標に整備を進めたいと考えているが、そのためには市民の皆さまの理解や、市や警察など関係機関との協議などさまざまな合意形成が必要になる。具体的な時期を示すことは難しいが、2026 年に一定の合意形成を図れるよう検討を進めていきたいと考えている。

Q 8 事業者がすでに内定し事業計画もほぼ完成した状況で今回の説明が行われているのか。

【アルファーズ】

事業計画については現在作成を進めている段階であり、現時点で確定しているものではない。最終的には、事業の実現性について、ご協力いただくパートナー企業などの判断も踏まえる必要があるため、今後事業計画の内容を整理しながら決定していくことになると考えている。

Q 9 他のアリーナと比べると中途半端な大きさであり、バスケットボール以外のイベント誘致が限られるため事業が成り立たないことも考えられるが、その場合の責任の主体はどこになるのか。

【アルファーズ】

民設民営の事業であるため、事業の主体および責任の多くは民間側になると考えている。リスクの詳細な分担については、今後の事業計画の整理の中で明確にしていくことになる。

■ アリーナの用途について

Q 10 アリーナにおいてアルファーズの試合以外の日程をどのように活用する考えか。

【アルファーズ】

アリーナの活用については、クラブの試合以外にも他スポーツの大会や音楽興行、各種イベント、市民利用など様々な可能性を検討している。現在、関係事業者へのヒアリングなどを行いながら、稼働率を高めるための活用方法をプロジェクトチームで検討している。

Q 11 アリーナ内での公開練習の見学や公共利用など収益や地域利用につながる工夫も検討してほしい。

【アルファーズ】

今後、具体的な計画を検討していく中で、事業面や資金面などさまざまな課題と向き合いながら、市民の皆さまがワクワクする、夢があるアリーナとなるよう検討を進めていきたい。

■ アリーナの外観について

Q 12 建物の高さはどの程度の高さを想定しているのか。

【アルファーズ】

建物の高さは現時点では未定であるが、建築基準法における高さ制限など関係法令は十分に考慮して検討を進める。

Q 13 候補地は景観計画においてレイクタウン特定地区に定められている。市が市有地を貸し付け、財政的な支援を行うのであれば、景観配慮などの努力義務はしっかりと遵守すべきと考えるが、どのように考えているのか。

【アルファーズ】

景観条例・景観計画などの法令については遵守することを前提としている。そのうえで、レイクタウンの水辺という特徴を活かしながら、周辺環境と調和する設計となるよう検討している。今後も早い段階から市と協議しながら法令遵守を確保していきたい。

■新アリーナにおける集客の見込みについて

Q14 5,000～6,000席規模のアリーナでは、現在の観客数の状況を踏まえると収容人数が不足する可能性があるのではないか。

【アルファーズ】

現在、越谷市立総合体育館でも4,000人を超える試合を開催できるようになってきているが、様々な工夫と努力を重ねて実現している状況でもある。新アリーナについて、まずは5,000～6,000席規模の会場でしっかりとした熱狂を生み出しながら多くの方に観戦していただくことを想定している。地域の皆さまや子どもたちに観戦機会を提供していくことも大切にしながら、この規模感での整備を前向きに検討している。

Q15 観客動員について。今シーズンは平均4,000人を目標としているとの説明があったが、さいたまスーパーアリーナで開催された2試合（各約2万人規模）を除くと、現在の平均動員は約3,800人程度と理解している。さらに来シーズンは下位の「B.LEAGUE ONE」の所属となる予定であり、集客はより厳しくなる可能性もあると思われるが、今後の観客動員の見通しと評価について教えてほしい。

【アルファーズ】

集客については、現在使用している会場は収容規模の制約等もあり、平均4,000人を埋めること自体が容易ではない側面もある。今シーズンはさいたまスーパーアリーナでの試合開催も含め、計画的に4,000人の基準達成を目指している。来シーズン、「B.LEAGUE ONE」においても、これまでのノウハウを活かしながら、年間の計画を立てて進めていく予定であり、問題なく達成できる見込みと考えている。

Q16 新アリーナでは、バスケットボールの試合だけでなく、音楽興行やM I C Eなども催していく予定とのことだが、首都圏に類似施設が多いなかで集客ができるのか。

【アルファーズ】

越谷の立地を強みと捉えているが、首都圏に類似施設が多いことは認識している。そのため、他施設の事例を調査し、関係者へのヒアリングも行いながら、どのように独自性を出し、選ばれるアリーナにしていくかを現在検討している。

Q17 アリーナの集客について、日常的に使える付帯施設が重要と考えるが、国内外のアリーナの事例やクラブの考えを教えてほしい。

【市】

アリーナの集客見込みについては、市としても本格的な検討を開始した段階であり、今後さらに調査を進めていく必要があると考えている。まずは、国内の事例としてBリーグクラブが使用しているアリーナの状況などを参考に調査していきたい。

単に施設があるだけでは継続的な集客は難しいと認識している。そのため、クラブにはどのような運営を行うのか、またどのような付帯機能を持たせるのかについて十分に検討いただき、民間主体で継続的に運営できる施設となるようお願いしている。

そのうえで、市としては地域に開かれたスペースや、現在の水辺のまちづくり館にある観光協会事務所や会議室などの機能について取り入れていきたいという考えもあり、イベント時の利用にとどまらず、日常的に地域に開かれた施設となるよう、調査や協議を進めていきたい。

■ 資金面の見通しについて

Q18 クラブから市に提示をしている資金計画や運営収支、また建設費の見通しなどについて教えてほしい。

【アルファーズ】

資金計画や収支計画については、市との協議の中で複数のプランを検討しているが、現時点では確定しているものではないため、本日の場で具体的な内容をお示しすることは難しい状況である。

Q19 建設費用について、高騰している現状を踏まえた見通しについて伺いたい。

【アルファーズ】

建設費用が高騰している状況は認識している。説明資料で示した外観はあくまでもイメージであるが、場合によっては導入する設備を簡素化するなど、様々な可能性を視野に入れながらこの先の検討を進めていきたいと考えている。

Q20 アリーナの建設費が数百億円になるとの話もあるが、資金調達の目処は立っているのか。また、いつまでに目途をつける必要があり、いつまでにできるのか。

【アルファーズ】

資金調達については、民設民営の事業であるため、事業収支を踏まえたうえで、他の民間企業に協力をいただきながら調整しているところであり、現段階で申し上げることは難しい状況である。

Q21 アリーナの持続的な運営は可能なのか。万が一撤退となった場合、市有地であるため建物の取り壊し等の負担について懸念している。5,000人規模のアリーナで採算性を見通しは立っているのか。

【アルファーズ】

運営の採算性について、クラブにて様々なスタジアムやアリーナの事例を研究しているが、採算が成り立っていないケースがあることも認識している。今回の計画は民設民営を前提としており、独立採算での運営を基本としている。近年のアリーナ運営のトレンドとしては、スポンサーシップやネーミングライツなどの非貸館収入の確保が重要になってきており、クラブとして運営へ関与するなかで、地域での知名度やネットワークを活かしながら、こうした収益の確保により採算性の向上を図っていく想定である。

Q22 施設の老朽化によるメンテナンス費用や維持管理費についてどのように考えているか。

【アルファーズ】

クラブにて各地のアリーナ事例を勉強している中で、老朽化して陳腐化していくアリーナと、事業途中で設備の更新や大規模改修を行いながら価値を高め、収益を上げているアリーナの2パターンに分かれていると認識している。事業計画を検討している中でも、施設のバリューアップを考慮し、大規模修繕や更新投資の費用も見込んだ上で検討を進めている。

■周辺の混雑等による課題について

Q23 レイクタウン周辺の駐車場整備についてどのように考えているのか。アリーナ自体に駐車場を設けるのか。

【アルファーズ】

公共交通機関の利用を促進していくことを基本的な考えとしており、アリーナ敷地内に駐車場を設けない方向も一案として検討している。渋滞対策については、現状の把握を進めているほか、同様の立地環境にあるスタジアムやアリーナの事例を調査し、実効性の高い対策の整理を行っている。今後、警察など関係機関とも協議しながら、具体的な対策を検討していく予定であり、市民の皆さまの協力をいただきながら来場方法の分散を進めていくことも想定している。

Q24 交通渋滞をクリアするためには道路整備が必要であり、周辺の生活道路に車が入り込む可能性もあるが、市としてインフラ整備や渋滞緩和対策を行うのか。

【市】

交通対策については、事業主体であるクラブが中心となって検討しているが、市としても必要に応じてクラブと連携しながら対応を検討していきたい。

Q25 アリーナは、クラブのファンにとっては夢のある話であるが、周辺住民にとっては切実な問題である。渋滞など周辺住民への影響や課題、デメリットなどについて全く説明がなかったが、本来、資料に記載して説明すべきである。住民にとってのデメリットやこれら課題への対応等についてどのように考えているか。

【アルファーズ】

現在、渋滞、騒音・振動、夜間の滞留、ゴミ問題などを主な課題として想定しながら、協力いただく民間企業を交え検討を進めているが、具体的な対策案まで至っておらず、資料に盛り込めなかった点については申し訳なく思っている。

渋滞対策については、同様の立地環境にあるスタジアムやアリーナの事例を参考に検討を進めている。騒音・振動については、屋内施設の特性を踏まえ、建築面での対策により抑制を図る方向で検討している。また、夜間滞留やゴミ問題についても、警備体制や施設運営の中で対応していくことを想定している。

Q26 試合日などに越谷レイクタウン駅が混雑した場合の安全対策をどう考えるか。

【アルファーズ】

駅利用者の増加については、今後、市などと協議をしていくことになるが、来場・退場時間の分散やその他公共交通機関の利用促進などに取り組む方針である。

Q27 アリーナはレイクタウンの大相模調節池まで食い込んで建設するのか。
調節池は水害対策のための施設であるが、そこにアリーナを建設することで治水機能への影響がないか心配である。

【アルファーズ】

大前提として、調節池の治水機能には影響を及ぼさない形での検討を進めている。具体的な設計前で詳細な検討はこれからであるが、配慮しながら検討を行っている。

【市】

市もクラブに対して治水機能を損なわないことを求めている。また、アリーナとは直接関係はないが、市としても水害対策は重要と認識しており、増林地区の東埼玉資源環境組合の対岸に、県と連携して新たな雨水貯留施設整備の取組みも進めている。

■ 現状機能の環境の維持について

Q28 調節池周辺の散歩道やランニングコースは維持されるのか。

【アルファーズ】

池周辺の散歩道やイベント等で利用されている場所については、基本的には壊さず残す形を想定している。加えて、水辺空間においては既存のイベントとの連携、新規イベントの発案も考えている。

Q29 水辺のまちづくり館がなくなることに懸念がある。レイクタウン地域には公共的な施設がなく、投票所として使える場所や図書館、支所、憩いの場など、市民が集まれるような代替の機能を新施設に取り込む考えはあるのか。

【アルファーズ】

水辺のまちづくり館の代替となる公共機能については、市と協議しながら、ご要望も踏まえて検討を進めていく考えである。

【市】

現時点で決まっているものはないが、新しいアリーナに公共的な機能を取り込むことについては、現在の水辺のまちづくり館の機能への対応を含め、今後検討すべき課題であると考えている。

■ サンシティ事業との兼ね合いについて

Q30 これまでの経緯について。以前クラブは、地元経済界の方々などとともに、サンシティでのアリーナ実現を目指していた経過があるが、サンシティからレイクタウンへ候補地が変更された理由について教えてほしい。

【アルファーズ】

サンシティからレイクタウンへ候補地が変更された経緯について、当初はサンシティでのアリーナ整備の可能性も視野に入れて検討していたが、当時、サンシティでのアリーナ整備は不確かであったと認識している。また、サンシティの建替えでは公共事業として公募のプロセスに一定の期間がかかり、クラブが目指す 2029-2030 シーズンの B プレミア参入のスケジュールに間に合わない可能性があった。そのため、実現可能性やスケジュール面、さらには、レイクタウンでのアリーナ整備のメリットなどを総合的に検討した結果、レイクタウンでの整備を要望するに至った。

Q31 交通利便性やサンシティの建て替えなどを考えると、南越谷にアリーナを整備する方が将来性があってよいのではないか。

【アルファーズ】

クラブとしては 2029-30 シーズンでの B プレミア参入を最重要目標としており、そのスケジュールを踏まえると、レイクタウンでの整備が最も実現可能性が高いと考えている。加えて、レイクタウンは大型商業施設をはじめ周辺環境の魅力も高く、様々な可能性が広がる立地であることから、レイクタウンを候補地として要望している。

【市】

過去にクラブからサンシティでのアリーナ整備の相談を受けた経緯はある。サンシティについては、現在、審議会において市の財政状況や市民意見などを踏まえ議論が進められている。その過程でサンシティでのアリーナ整備についての意見もあったが、現状は市民ホールを建て替える方向性が示されているところである。

Q32 サンシティホールや総合体育館など既存の公共施設があるなかで、アリーナとの競合により、いずれかの施設の利用が減るのではないか。

【市】

クラブが検討しているアリーナとサンシティの市民ホール、総合体育館では、一部重なる部分はあるかもしれないが、基本的には機能や利用者、利用方法等が異なる施設と捉えている。市民ホールについては現在も高い稼働率を維持しており、現在、審議会において議論が行われているが、ホールの建替えという方向で検討が進められている。市としては、アリーナは収益施設としての側面が強い施設と考えており、基本的には民設民営での整備を前提としてクラブに伝えているが、仮に市が支援する場合には、これら施設が協力して市の魅力向上につなげていくこともできるのではと考えている。

■今後の市民との合意形成について

Q33 非常にタイトなスケジュールのなかで、どのように地域住民との合意形成を図っていくのか。

【市】

地域住民や市民の声をどのように伺いながら合意形成を図るかについては、本日の説明会のような機会を今後も設けていきたいと考えている。また、アンケート調査なども実施し、市民の皆さまの意見を把握したうえで、クラブとともに対応を検討していく。市としては、土地の貸付などの支援の可否については、事業の成立可能性や公共性などを調査・検証したうえで、市民の意見も踏まえ合理的に判断していく考えである。

なお、工事着工は早くても来年以降の予定であり、まずは設計から進めていくことになる。

Q34 クラブのアリーナ整備に対して、市有地を貸し付け、公金を投入する可能性がある以上、パブリックコメントを実施すべきと思うが、その考えを教えてください。

【市】

今回のアリーナ整備は民間事業であり、現時点で市としてパブリックコメントを実施する考えはない。このような説明会などを通じて市民の皆さまの意見や懸念を伺いながら、クラブと協議等を行い、市として支援の可能性などについて検討を進めていきたいと考えている。

Q35 市民がアリーナについて判断できる具体的な数値はいつ頃公表されるのか。

【アルファーズ】

数値の公表時期については、現在スポーツ庁の委託事業の中で計画策定を進めているところであり、今年度中の公表は難しい状況である。今後、事業収支や資金計画が民間側で固まり次第、適切なタイミングで示していくことになるが、現時点で具体的な時期をお示しすることは難しい。

Q36 今後の合意形成について。レイクタウンでのアリーナについて一定の反対がなくなることはないように考えるが、どのタイミングで住民の理解を判断するのか。
また、一定の反対があった場合の考え方を教えてください。

【アルファーズ】

合意形成については、市有地を使用する以上、地域住民の理解をいただくことが大切であると認識している。すべての反対意見がなくなることは難しい面もあるが、しっかりと意見を伺い、いただいた意見に対し丁寧に説明を重ねながら理解を得られるよう進めていきたいと考えている。

■公共による援助について

Q37 市としてクラブから提示されている資金計画をどのように受け止めているのか。

【市】

クラブから提示されている内容について、現在協議を行っているところであり、この場での回答は差し控える。市としては、クラブのアリーナ整備を支援していきたい考えはあるが、調査結果や市民の皆さまの意見等を踏まえたうえで、慎重かつ合理的に判断したいと考えている。

**Q38 アリーナ整備に市の税金が使われることはあるのか。
市による資金面の援助の可能性はあるのか。**

【市】

民間企業が整備・所有し、運営する民設民営の施設については、原則としてすべて民間資金で賄うことが一般的であると考えている。一方で、5,000人規模のアリーナを民間資金のみで整備・運営できている事例が国内では多くないことも事実である。

アリーナは、高い集客の可能性を秘めた施設であり、また、クラブが継続的に本市を拠点としてトップリーグで活躍をすることで、市の知名度向上や郷土愛の醸成、地域の活性化、災害時の活用など、さまざまな社会的・経済的効果が期待でき、一定の「公益性」「公共性」を有するものと考えている。

このため、現在は支援の可能性について調査・検証を行っている段階であり、クラブの事業計画の成立可能性や継続性について、専門家の知見も踏まえて分析したうえで慎重に判断していく。

Q39 民設民営のアリーナとのことだが、市の財政支援の上限は設定されているのか。

【市】

市の支援について、現時点でクラブ側の計画が確定していないため具体的なことは申し上げられないが、支援を行う場合は一定の上限を設けることになると考えている。

Q40 クラブの決算を見ると利益が少なく、建設費の高騰もあるなかでアリーナ整備を進めるためには、市の債務保証やバックアップが不可欠と考えるが、財務上の継続性について考えを伺いたい。

【市】

民設民営のアリーナであるため、基本的にはクラブ主体で事業を進めていただくことが前提となる。一方で、物価や建設費の高騰、さらには5,000人規模のアリーナでの独立採算が難しいという状況も認識している。

クラブやアリーナの価値を踏まえると財政的な支援について検討する余地はあると考えており、今後、クラブから示される収支計画や事業計画、クラブやアリーナの社会的・経済的効果、メリット、デメリットなどについて調査・検証等を行い、必要に応じて財政支援の可能性についても検討していきたい。

Q41 市の姿勢について、他の自治体が誘致に積極的ななかで、クラブに対しやや受動的、消極的に見えるが、その点について考えを伺いたい。

【市】

市としてもアリーナやクラブの可能性については十分に認識している。一方で、市民の皆さまの税金をお預かりしている行政としては、メリットだけでなくデメリットや他の優先すべき課題などを含めて総合的に判断していく必要がある。消極的に見えてしまう部分があるかもしれないが、今後もさまざまな調査・検討や市民、地域の皆さまの意見を伺いながら、将来に向けて適切かつ合理的な判断を行っていきたいと考えている。

Q42 賑わいはあってよいと思うが、市は民間にすべて任せるという話ばかりで少し寂しく感じる。資金面で税金を使えないということであれば、ふるさと納税の活用などにより市としてクラブを支援する方法もあるのではないか。

【市】

資金面の支援について、ふるさと納税制度の活用については検討していきたいと考えており、クラブとも意見交換を行っているところである。

Q43 国や県の協力を得ながら進める考えはあるのか。

【アルファーズ】

国や県への協力依頼についても、今後並行して検討していきたいと考えている。

Q44 市有地の賃借料についてどのように考えているのか。

市有地の貸付は市場価格ベースなのか、それとも減免等を想定しているのか。

【市】

減免を行っている事例もあるが、市としては、原則減免は行わず、不動産鑑定に基づき算定した金額で貸し付けたいと考えており、クラブにもその旨を伝えている。

Q45 市有地の貸付けにあたり市はクラブと随意契約を締結すると思うが、法令等により要件等がかなり限定されるなかで、適正に手続きを進めることができるのか。

【市】

市有地の貸付けにあたっては、法令等により一定の制約があることは認識している。市有地の貸付けについては有償を基本とし、事業の成立可能性や継続可能性、公共性・公益性が十分に担保され、市民のためになる事業となっているかなどをしっかりと検証し合理的に判断していく考えである。

Q46 市有地を貸し付ける場合、市に収益が生じるという理解でよいか。

【市】

市有地の貸付については、有償を基本とすることをクラブに伝えており、その場合は市の収入となる想定である。

Q47 アルティリー千葉（千葉市）のアリーナ整備と同様の整備方法と考えてよいか。

【市】

アルティリー千葉の事例については、公園内にクラブがアリーナを整備し、建設後、アリーナは千葉市へ寄附され、市の所有となる形で進められていると認識している。

Q 48 レイクタウンの市有地にアリーナが整備される場合、図書館などの公共施設が整備される可能性はなくなるのか。

【市】

現在の水辺のまちづくり館は、観光事業や会議室の貸出し等さまざまな形で地域の皆さまに利用されていることは承知している。また、この土地は将来的な拠点施設用地として取得した経過もある。現時点でこの土地に市が新たな公共施設を建設するような考えはなく、今後、スペースや財政的な制約があるが、地域ニーズの高い公共的な機能をアリーナ内に設置することについても、その必要性等を含め検討していきたいと考えている。

■市としての優先順位について

Q 49 クラブの取組みを応援したい思いはあるが、アリーナがないことで亡くなる人はいない。一方で、市立病院の機能低下で亡くなる人はいる。市の支出には優先順位があり、市民の生命に直結する市立病院の建替えや機能向上は最優先事項と考えるが、레이크タウンでのアリーナ建設を優先する理由を教えてください。

【市】

市立病院については老朽化が進んでおり、今後どのように対応していくかは市としても最重要課題の一つであることから、現在検討を進めているところである。行政には医療、教育、福祉、まちづくりなどさまざまな分野があり、そのなかで優先すべき事業については並行して進めていく必要がある。アリーナについては、基本的には民設民営を前提とした事業であり、市は支援の可能性について調査・検討を進めている段階である。今後、アリーナ整備による社会的・経済的効果などについて検証等を行いながら、市としての支援の可能性を判断していく。市立病院についても重要な課題として引き続き検討を進めていく。

Q 50 人口減少や高齢化が進む中で、現役世代や子育て世代に選ばれるまちづくりが重要であるとする。その一つの要素としてプロスポーツやアリーナのようなコンテンツがあるのではないかと考える。駐車場の課題などは、努力すれば解決できる場所もあると思うが、アリーナ建設を否定した場合、市はどのような魅力を発信し、選ばれるまちを目指していくのか、市のビジョンを教えてください。

【市】

人口減少社会の中で、住む人や訪れる人、関わる人を増やしていくことが重要であるという考え方は、市としてもそのとおりと考えており、クラブやアリーナは、地域の貴重な資源の一つと認識している。一方で、越谷市には、それだけでなく、住みやすい生活環境や水辺空間などさまざまな魅力があり、それらを総合的に発信しながらまちの魅力を高めていきたいと考えている。アリーナやクラブの魅力は大きなものであるが、市の財政状況等を踏まえたうえで、クラブの事業計画が、市民の皆さまに負担が生じない、継続的に市に貢献いただけるかなどを検討し、市の支援の可能性について判断していきたい。

■その他

Q 51 既存の総合体育館の改修や建て替えではなくレイクタウンでの新設とした理由を教えてください。

【アルファーズ】

現在使用している総合体育館の改修についても検討したが、B プレミアの参入基準には 5,000 席以上に加え、VIP 席や専用動線の確保、全席個室化など複数の要件がある。これらを満たす改修は、工期や費用の面から現実的ではなく、レイクタウンでの新設が最も実現可能性が高く、魅力的な形であると判断した。

Q 52 総合体育館の改修や建替えについて市の考えを教えてください。

【市】

市の公共施設の今後のあり方については、公共施設等総合管理計画の第 2 次アクションプランに基づき検討を進めている。総合体育館を含めた市内 4 つの体育館については、建築年度の古い施設から順に大規模改修を実施する予定であり、令和 8 年度から令和 12 年度にかけて北体育館、西体育館、その後令和 13 年度以降に総合体育館の大規模改修を行う方向で検討している。

Q 53 新アリーナを通じて地域とのつながりはどのようになると考えているか。

【アルファーズ】

アリーナが実現することで、地域の様々な交流の場となる可能性があると考えている。プロスポーツ観戦の場にとどまらず、大会の誘致や高いレベルのスポーツに触れる機会を創出するとともに、市民の皆さまが実際に利用し体験できる施設にしていきたいと考えている。現時点では具体的な設計段階には至っていないが、子どもたちにとって優しい施設、高齢者の皆さまにも利用しやすい環境づくり、地域の皆さまに楽しんでいただけるイベントの誘致など、地域に根ざしたアリーナ運営を目指していく。

Q 54 アリーナ整備に期待しており、今後応援していきたいと考えているが、気運醸成に向けて市民が参加できるような機会があれば教えてください。

【アルファーズ】

気運醸成に向けて、今後も市民の皆さまに応援していただけるような機会を設けていきたいと考えている。具体的な時期や回数は決まっていないが前向きに検討していく。

Q 55 事業継続性とコンプライアンスについて、アリーナ建設や B プレミア参入により一部のステークホルダーが利益を得るような可能性がある。そうした懸念を払しょくするためにはクラブが株式情報を市民に公開するなどの方法が考えられるが、クラブの考えを教えてください。

【アルファーズ】

民間企業であるため、利益を度外視して活動することが難しいのが事実であるが、クラブとしては、利益ではなくチーム力強化を第一に考えていることをご理解いただきたい。スポーツチームとして競技力を高め、トップリーグで戦えるクラブを目指すことが最優先事項であり、そのために B プレミア参入を目標としている。

Q56 アリーナ整備は一部のステークホルダーへの利益誘導ではなく、地元地域への還元、ファンの期待に応えるための純粋な動機であると断言できるか。

【市】

特定の個人や関係者への利益供与ということはない。

Q57 市民にとってアリーナ建設はスタートであり、20年後、30年後にアリーナやクラブがどのようになっていると想定しているのか。

【アルファーズ】

これまで越谷で活動が続ける中で、多くの方々のご理解とご支援をいただきながら、B3 から B2、そして B1 へと昇格してきた。まずはアリーナを完成させ、国内最高峰のトップリーグで戦い、日本一を目指していきたい。そのうえで、地域とともに日本一のクラブとなることを目標としている。アリーナについても、バスケットボールだけでなく、市民の皆さまに幅広く利用いただける施設とし、越谷のまちの活性化につながる拠点となることを目指していく。長期的には、クラブとアリーナが地域とともに発展し、持続的に成長していくことを目指している。

(意見) アリーナの候補予定地の周辺が子どもたちの通学路になっている。アリーナができることで子どもたちの通学路に少なからず影響があると思うので、しっかりと考えていただきたい。

以上